Best Shop Bs-Summit BSサミット

BSサミット事業協同組合特集

〝精鋭部隊〟そろえる時代に

魅力的な職場づくり「待ったなし」

BSサミット事業協同組合が、新たなステージへ進もうとしている。自動車技術の高度化や自動車メーカーのサイバーセキュリティー対策の強化で、従来の分解整備・車体整備業の手法では通用しない時代がやってきた。同時に消費者やすべてのステークホルダーに対してコンプライアンス（法令順守）の徹底による透明性の確保や、自動車メーカーとのパートナーシップによる次世代自動車への対応に生半可な覚悟ではろえる時代が始まった」と強調する。

モビリティサービス業へ

BSサミットは2023年、車体整備からすべてのモビリティに対応する「モビリティサービス業」への転換を宣言した。20年に始まった特定整備制度で整備の範囲が電子制御装置整備に拡大し、分解と車体の垣根がなくなった。また、マイクロモビリティや空飛ぶクルマなどの出現で、四輪車にとどまらず、モビリティの概念が変化を遂げている。こうしたモビリティの進化や多様化に対し、BSサミットは安全な交通社会の要としての挑戦を続ける。モビリティサービス業への転換にはそうした強い意志が込められている。

なぜなら、15年に第三者認証機関のテュフラインランドジャパンが監修した認定制度「エクセレント車体整備工場」を導入し、20年から作業のエビデンス（証拠）とアーカイブ（保存記録）、トレーサビリティー（追跡可能性）を明確にする「BSエビデンスシステム」の運用を進めてきたからだ。特定整備制度の認証も全組合員の取得が完了しており、国土交通省が24年3月に取りまとめた「車体整備の消費者に対する透明性確保に向けたガイドライン」はBSサミットの足跡そのものと言って過言ではない。

現状に満足せず より高いレベルへ

とはいえ、BSサミットは現状に満足するのではなく、これからもより高いレベルを追求していく。その背景には幅広いステークホルダーからのさらなる信頼を勝ち得ていくことが必要だからだ。今後、本格的な普及を迎える自動運転システムやソフトウエアが車の機能を左右する「ソフトウエア・ディファインド・ビークル（SDV）」、車体部品を一体成型する鋳造技術「ギガキャスト」などの整備や修理には、自動車メーカーが持つ技術情報の取得が欠かせなくなる。電子制御装置整備の対象車両ではすでに汎用スキャンツール（外部故障診断機）で対応できない車種や作業が増えつつある。車の基本性能を左右するより高度な技術に関する情報を、自動車メーカーがむやみやたらと開示するとは考えづらい。自動車メーカーが情報を開示していく大前提として、組合員のコンプライアンスの再認識と徹底がその一歩となり、BSサミットが進めるDMS（ダイレクト・メンテナンス・ソリューション、**注1**）の実行につながる原動力となる。

また、今後は整備工場において、さらに魅力ある店づくりも求められるようになる。昨今の大手中古車販売店による自動車保険金の不正請求問題で、損害保険会社のDRP（ダイレクト・リペア・プログラム、**注2**）の仕組みが変わり始め、損保会社が提示した複数の整備工場の中から、自動車ユーザー自らで選択する方式が主流になりつつある。整備工場への入庫誘導はBtoB（企業間取引）の要素が色濃かったが、自動車ユーザーの意見が一層反映される仕組みとなる。こうした変化を受けて、BSサミットでは接客品質の向上や充実したホームページの制作、魅力ある店づくり、5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）などソフト面の取り組みももう一段加速させる。

選ばれる工場になるー。BSサミットが掲げてきた本質はこれからも変わることはないが、人材や設備、コンプライアンスに積極的な投資を進めてきた立場として、従来通りの料金水準で仕事を受注し続けていくことが難しい側面もある。選ばれる工場としての地位を固めていくと同時に、業界をリードする存在として仕事を「選ぶ工場」への変貌も遂げようとしている。整備業界は整備士の高齢化やなり手の不足で、待遇の改善や働きやすく、働きがいがある職場づくりが待ったなしの課題だ。時代の変化に対応する整備工場が仕事を選べる環境、整備業界の社会的地位の向上に向けて、BSサミットの新たな挑戦がスタートする。

注1・DMS・・・自動車メーカーから直接整備依頼が入る整備工場ネットワーク
注2・DRP・・・損害保険会社から直接、指定の工場に入庫誘導するシステム

BSサミットは新たなステージへ

磯部 君男理事長

情報・ツール獲得へ 相応の体制を

―精鋭部隊をそろえる時代が始まった

「電子制御装置やギガキャストなど電気自動車（EV）の整備や修理に、専業の整備工場が自動車メーカーからの情報提供がなければ成り立たない時代がやってきた。汎用のスキャンツール（外部故障診断機）では整備が完了できない車種が増えており、純正スキャンツールがなければ100％対応できているとは言えなくなった。整備業界の中からはメーカーによる情報提供を訴える声はあるが、メーカーのサイバーセキュリティー対策の強化が進む中、BSサミットとしては情報やツールを得るために整備工場が先行してそれ相応の体制を整える必要があると考えている。メーカーが情報提供するような選ばれる工場になるためには、組合員各社が精鋭部隊となることが欠かせなくなった」

―選ばれる整備工場になるために必要なことは

「第一歩はコンプライアンス（法令順守）の再認識と徹底だ。BSサミットでは指定工場の組合員に対して、第三者機関による自主検査を始める。加入基準の改定により、指定工場の組合員は、組合員各社が精鋭部隊となることが欠かせなくなった」

―コンプライアンスだけではなく人材や技術の教育にも力を入れている

「教育は、独自に行える領域と自動車メーカーとの連携が必須な領域がある。独自領域の人材教育では、サイバーセキュリティーへの対応や、電子制御装置整備やOBD（車載式故障診断装置）検査の対象車両を正しく見極めて、適切な見積もりを迅速に提供するサービスフロントの研修を進めている。一方、これから登場する車両の技術については正しい情報もなければ、補修方法もまだ分からないのが実情だ。そのため、われわれが先走って独自に進める段階ではなく、メーカーと歩調を合わせて取り組めるように行政を通じて呼び掛けを行っている。車両は従来の機械的な構造とは異なり、ソフトウエアによる制御で仕組みは目には見えない。その次世代車両の整備に必要な教育や情報、ツールをメーカーから提供してもらうための交渉や体制づくりを進めている。ここまでの取り組みを進められているのはBSサミットだけだ」

新規加入が刺激に より深い部分に視野

―指定整備工場を筆頭に新規加入が拡大している

「指定工場の加入で、車体整備の学びが深化している。指定工場と切っても切れないOBD検査について学ぶ中で、車体整備や中古車販売でも重要性があるとの認識が高まった。補修や中古車の登録・届け出も例外ではなく、保安基準への不適合を示す特定DTC（故障コード）の確認が必須となる。取り扱った車両の特定DTCをチェックし、適切な整備とDTCを消去して納車しなければならない。指定工場の加入が刺激となり、車体整備の分野のみならず、より視野を広げることができている」

―今後の展望は

「組合員各社のオペレーションを向上させる仕組みはもちろん、われわれは自動車整備の業界団体として国や行政との連携にも注力している。ルール作りや法改正に対する意見を届けており、これらの働きかけによって業界の幅広い事業者のメリットにつながった事例もある。今後も業界全体をより良くしていくために、取り組んでいく」

次世代自動車への対応 生半可な覚悟ではない

選ばれる工場になるために

私たちがBSサミットを選んだ理由

鈑金事業のノウハウ獲得目指して

自社にて鈑金工場を立ち上げたのを機に、鈑金事業の収益拡大の考え方やノウハウを得るために加入致しました。

まず、BSサミット本部がこれからの自動車整備業界の事を本気で考えられている団体であるというのが、会合等でも伝わってきます。

変革期と言われ、業界そのものの方向性が問われていく中で自社の立ち位置を明確にしていく為にも、様々な事を学ばせて頂き、生かしていける様に会員活動に取り組みます。

ガリレオコーポレーション
代表取締役社長：森浩輔　入会日：2024年1月

▼本社　愛媛県松山市来住町1349―7 ▼鈑金工場　愛媛県東温市田窪1922―1 ▼業務内容　自動車販売・整備・鈑金・保険販売等

必要な情報と対策 どこよりも早く共有

経営環境というのは、常に交通網と情報網で変化します。

富山も北陸新幹線ができ、いっぺんに繁栄と淘汰が押し寄せました。道路一本新しくできるだけで、商売のやり方は変わります。

同時に大事なのが情報網ですが、BSサミットはまさに必要な情報と対策がどこよりも迅速に共有される、そういう組織だと実感しています。

ラッドライド
代表取締役：森本耕司　入会日：2023年12月

▼所在地　富山県滑川市中野島275等1 ▼業務内容　車検・板金塗装・車販

激変する外部環境にしっかり先手を打つために、BSサミットは欠かせない存在になっています。

鈑金工場新設のために 業界の知見を生かす

昨年、弊社はBSサミットに加入しました。広島で販売店3店舗、6整備工場を運営する中で、顧客数の拡大に伴い、車販売時や既納客の鈑金の入庫増加に対応するため、鈑金工場の新設を計画。しかし多額の設備投資が必要なため、静岡の坂井モーター坂井社長に相談し、業界の知見を持つBSサミットに加入を決めました。

入会後は毎月の支部会で本部からの情報共有や信頼して相談できるメンバーと懇親を深めています。今後も職人の採用・育成、自動車技術情報の取得、欧米の鈑金業界の状況など、BSサミット会員の知見を活用し、業界の発展と顧客への持続的な貢献を目指します。

サコダ車輌
代表取締役：迫田宏治　入会日：2024年1月

▼所在地　広島県広島市佐伯区五日市町石内4193―1 ▼業務内容　自動車販売・車検整備・鈑金・レンタカー・買取